
遊戯王 Eternal Bonds

Astaroth8560

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王 Eternal Bonds

【Nコード】

N6409Z

【作者名】

Astarothe8560

【あらすじ】

とある街で日常的に楽しくデュエルしている
ペンギンモンスター使い 天銀 遊泳。
ある出来事から彼の本当の人生が始まる。

TURN 01「新たな伝説の幕開け」

遊戯王 Eternal Bonds

TURN 01「新たな伝説の幕開け」

遊泳「行け！ ペンギン・ウォリアー！ダイレクトアタック
！！」

対戦相手「ぬぐああああ！！」

対戦相手 LP 800 ↓ 0

WIN Yuei

今、俺は街の噴水広場でデュエル中だった。

結果は俺がノーダメージで圧勝だった。うむ、俺のペンギン達は
いつも輝いている！

ああそつだ・・・紹介がまだだった・・・。

俺の名は 天銀てんぎん 遊泳ゆうえい・・・ペンギンモンスター使いのデュエ
リストさ。

今は時代の変化に伴い、ペンギンモンスターが増えてきた。

もちろん俺のデッキには、ペンギン・ソルジャーや大皇帝ペンギンも入っている。

俺がペンギンモンスターを使う理由としては・・・単純に動物の中でペンギンが一番好きだから。うん、それだけ。

このときの俺はただ純粋にデュエルを楽しむ生活をしているだけ・

この後俺は……俺の本当の人生が始まる出来事が起きた……。

||
||
||
||
||
||
||
||
||
||
オープニング
||
||
||
||
||
||
||
||

今は召喚システムはシンクロとエクシーズ、融合、儀式。これといって新しい召喚方法は生み出されていない。

今でもガチカードを使う人は多い。

俺はそんなカードは持っていると言えは持っているがほんの僅かでも俺は今のこのデッキが好きだ・・・だからあまりデッキは変えたりはしない・・・。

ん？俺が普段どんな生活を送っているのかって？
聞いて驚くなよ？俺の日常生活はな・・・。

[illegible]

これは昼飯前ひるめしのときの風景だ。

「おい、遊泳。少しは昼飯作るの手伝ってくれよ……。」

遊泳「えゝだつて俺料理下手だし料理めんどくさいしコンビニで買えばいいし。」

俺はこの通り、料理は苦手。というよりやり方はほとんど知らず、手伝うことくらいしかしない。

コンビニで弁当買いに行くほうがよっぽど楽だ。

？「お前なあ．．．じゃあ、ゴミの日にお前のペンギンカードを出していいか？」

遊泳「ははっ！カイン様っ！すぐに昼飯のご用意を致しますっ！カイン様は椅子にお掛けになってくださいっ！」

カイン「はは．．．やれやれだぜ．．．ていうかカイン様とか言うな。水臭い。」

遊泳「まあ、いつものことだからわかつてると思うけどよ．．．俺の料理．．．あまり期待しないほうがいいぜ？」

カイン「いいや、いくらお前の料理が激不味でも真心が込められてたらそれでいいさ。」

遊泳「褒めてるのか貶してるのか．．．。」

さすがに俺の大切な大切なカードを人質（？）にされたらこれは従うしかない。

俺の元気の源を捨てられたら俺は恐らくショック死しそうだ。

ま、俺はこの通りのんびりとした生活をしているのさ。

今はちょうど昼飯の時間で次のデュエルに向けての補給タイム。
ちなみに、俺の基本的な日程は以下の通り。

6時 デッキ調整
7時 朝飯
8時 デュエル
12時 昼飯
13時 デュエル
19時 晩飯
20時 フリータイム
21時 就寝・・・と見せかけて深夜アニメ視聴へ向けて起きる
22時 カインにボコられ、結局は寝る
23時 ベッドに入り、二人で寄り添いあい・・・

というわけだ・・・。

カイン「こら最後ちょっと待て。誤解を招くようなこと言うんじやねえよ。」

しかもいつから日程がデュエルオンパレードになったんだよ!」

遊泳「悪い悪い。これはもちろん冗談だ。俺ん家にベッドはなく、布団だけだ。」

カイン「まったく・・・飯のときに変なこというなよな・・・。」

まあ、こんな風に俺とカインは仲良く暮らしている。
ちなみにカインっていう奴は俺の親友だ。
過去に起きた事故のときに、俺を助けてくれた・・・。

今こいつとは兄弟のような関係になったんだ……。

今はその事故については詳しいことは覚えていない。当時の事故の衝撃が大きかったからな・・・。

でも俺はあの事故の衝撃で何か大切な存在を忘れたような気がするんだ……。

俺を見守ってくれた温かい存在……。いや、両親もそうだが、また別の存在が……。

だめだ、これ以上考えると頭痛がしてくる・・・

遊泳「ええい！気分転換にデュエルしに行くぜ！」

そういつて俺はカップの中の牛乳を一気に飲み干し、咄嗟に家から出て行く。

カイン「……食器くらい片付けていけよ……。」

[illegible]

とりあえず食器は片付けてだな・・・

後はデッキ、デュエルディスク。これで準備は完了だ！

ガチャッ！

遊泳「さあ、デュエルだっ！誰か俺を満足させてくれよ！！」

？「あのゝ．．．。」

家から出ると、突然男の声がした。

遊泳「おうっ！ナニカナナニカナ？デュエルなら大歓迎だぜ！」

俺は目を人一倍輝かせてその人に近づく。

おっと、思わずキスしかけ．．．いや何でもない。

？「わわっ！ビックリさせないでくれよ．．．。」

カイン「なあ遊泳。少しは落ち着いたらどうだ？」

遊泳「だってこいつデュエルしに来たんだろ？落ち着いてる暇な
んかないぜ！」

？（．．．なるほど．．．あの人の言うとおり、デュエル好きか．
．．。

．．。
誘う前にこいつがどれほどの腕か．．．俺が試して見るか．
．。

？「よし！早速だけど、俺とデュエルしようぜ！」

遊泳「ああ！」

鉄「俺の名は 鉄くろがね 里士さとし だ。よろしくな！」

遊泳「ああ、俺は天銀てんぎん 遊泳ゆうえい だ。

それじゃあ、早速噴水広場に行こうぜ！」

俺はデュエルするときはいつも噴水広場へ行くんだ。

俺の一番のお気に入りの場所……

ここでデュエルするのが俺の至福の時間だ。

こうしてカインが見守る中、いつもの噴水広場でデュエルが始まる。

そういえば俺って・・・デュエルバカというあだ名で有名になつてゐるんだつたな・・・。

料理はだめ、勉強は論外、だがスポーツやデュエルは（一応）並外れの腕前だ。

デュエルなしじゃ生きていけない！それがこの俺、天銀 遊泳だ！
そんな俺でもやるときはやる男だ！覚えておいてくれ！

「遊泳「それじゃあいくぜ！」

鉄「……言っておくけど、俺はそんなに強くは無いぜ？」

「遊泳、そうか？じゃあ楽勝だな！はーっはっはっはっはっはっはっ！」

カイン「こっ……こいつ……最悪だ……！」

自信なさげな鉄に対する遊泳の挑発的な言葉に呆れるカイン。

鉄「それでは……！」

遊泳、鉄「デュエル！」

Y
u
e
i

LP 400

LP400

[illegible]

遊泳「俺の名は 天銀 遊泳 !ペンギンデッキ使いのデュエリ
スト!

シンクロ召喚！現れる！
ペンギン・ウォリアー！！」

「遊泳「ルールとマナー」を守って楽しくデュエルしよう！」

[illegible]

遊泳 LP 4000

巨大ネズミを召喚！」

仕様)

遊泳（・・・地属性デツキか・・・？）

「俺のターン！ドロー！」

遊泳はじっくり手札を眺め、最初の一手を考える。

ATK	1300	LV	3
-----	------	----	---

水族・魚族・海竜族モンスター1体の攻撃力を10000ポ

こいつで ペンギン・リクルーター の攻撃力が10000
ポイントアップする！」

ATK 1300 +1000 〓 2300

遊泳「バトル！ 巨大ネズミ を攻撃だ！」

ペンギン・リクルーター から強烈な水鉄砲が放たれ、 巨大
ネズミ を倒す。

敗れたモンスターは光となって散る。

鉄「わお・・・なかなかやるね・・・。

攻撃力2300対1400・・・その差の900ポイントが
俺のダメージとなる。」

鉄 LP 4000 -900 〓 3100

遊泳「どうだ！これが俺のマジックコンボ（笑）だ！」

鉄「だが、 巨大ネズミ の効果が発動！戦闘で破壊され墓地
へ行ったとき、

デッキから攻撃力1500以下の地属性モンスター1体を攻
撃表示で特殊召喚できる！

俺が呼ぶのは ナチュル・チェリー だ！」

ATK 200 LV 1

遊泳（チューナーモンスターか・・・！

次のターンにシンクロ召喚するつもりか・・・。なら・・・

！）

カードを1枚伏せてターンエンドだ！」

遊泳はチューナーモンスターを相手が召喚した場合、よく警戒する。

強力なシンクロモンスターを出してくるからである。

鉄「ふっ・・・俺のターン・・・」

ゴブリンエリート部隊を召喚！」

ATK 2200 LV 4

鉄「レベル4のゴブリンエリート部隊に

レベル1のナチュル・チェリーをチューニング！シンク

口召喚！

いでよ！ ナチュル・ビースト！」

ATK 2200 LV 5

遊泳「だが攻撃力は2200・・・まだ俺のモンスターのほうが攻撃力が上！」

鉄「焦るなって・・・装備魔法 団結の力！」

俺の場の表側表示モンスター1体につき800ポイント、
装備モンスターの攻撃力・守備力がアップする！」

ATK 2200 +800 〃 3000

カイン「攻撃力3000だと!?!」

いとも簡単に 巨大ネズミ を倒させたのもこれが狙いだっただけ
とに気づくカイン。

これにより強力なモンスターが召喚されたことに動揺を隠せない
様子だった。

鉄「さらに ジャンク・アタック を装備！

戦闘でモンスターを破壊し、墓地へ送ったとき、
そのモンスターの攻撃力の半分のダメージを相手に与える！」

遊泳「く・・・！」

鉄「バトル！ ナチュル・ビースト で ペンギン・リクルータ
ー を攻撃！」

遊泳「させるかよ！トラップ発動！ ポセイドン・ウェーブ！
モンスターの攻撃を無効にし、さらに俺の場の
水族・魚族・海竜族モンスターの数×800ポイントのダ
メージを相手に与える！」

鉄「ほう・・・そうきたか・・・だがそう簡単にはいかないぜ？」

遊泳「・・・！」

鉄「カウンタートラップ ギャクタン！

罠カードの発動を無効にし、そのカードを表向きでデッキに
戻す。

そしてそのカードを相手がドロースするまで、相手は同名カー
ドを発動できない！」

遊泳「なにっ！？」

鉄「バトルは続行され、お前はバトルで700ポイント・・・
ジャンク・アタック の効果で650ポイント・・・
合計1350ポイントのダメージを受けてもらっぜ！」

遊泳「どわあっ！」

遊泳	LP	4000	-700	-650	〃	2650
----	----	------	------	------	---	------

遊泳「だがこの瞬間、ペンギン・リクルーターの効果発動！
戦闘で破壊されたとき、デッキからレベル4以下のペンギン
ンモンスター1体を

特殊召喚できる！現れる！ペンギン・アーチャー！！」

ATK	1400	LV	4
-----	------	----	---

鉄「・・・カードを1枚伏せてターンエンド・・・。」

鉄	LP	3100
---	----	------

遊泳	LP	2650
----	----	------

遊泳「俺のターン！」

2枚目の アクア・ジェット を発動！攻撃力を1000
ポイントアップだ！」

鉄「無駄だ！ ナチュル・ビースト の効果発動！

デッキの上からカードを2枚墓地へ送り、魔法カードの発動
を無効にして破壊することができる！」

パリーーン！

カードが破壊されたときに鳴る効果音だ。

響き渡るこの効果音は、キーカードの発動を無効にされ、シヨックを受けた遊泳の心を表しているとも言っているだろう。

遊泳「デッキのカードを2枚墓地へ送るだけで魔法カードを封じるだと・・・!?」

インチキ効果もいい加減にしろ!!」

鉄「さあ、どうした?もう打つ手は無いのか?」

遊泳「く・・・ペンギン・アーチャー を守備表示に変更・・・そしてモンスター効果。1ターンに1度、手札のペンギンモンスターを

2体まで捨て、このカードの攻撃力を

エンドフェイズまで捨てた枚数×300ポイントアップす

る!」

遊泳は ペンギン・ブースター を捨てる。

遊泳「カードを2枚伏せてターンエンドだ。」

DEF 1000

鉄「苦し紛れにモンスターを捨てたか。さすがにお前も焦っているな。」

遊泳「・・・。」

鉄「じゃ、俺のターンだ!」

遊泳「やばい・・・魔法カードを封じられたのなら・・・

俺に勝機は無いかもしれない・・・だが諦めるわけにはい

かねえ！)

鉄「2体目の 巨大ネズミ を召喚！」

ATK 1400 LV 4

ナチュル・ビースト ATK 3000 +800 ≡ 3800

鉄「さらにフィールド魔法 ガイアパワー を発動！

地属性モンスターの攻撃力を500ポイントアップし、

守備力は400ポイントダウンする。」

巨大ネズミ ATK 1400 +500 ≡ 1900

ナチュル・ビースト ATK 3800 +500 ≡ 4300

遊泳「こ・・・これはやりすぎでは・・・ない・・・か・・・？」

魔法カードを封じる凶悪なモンスターをそう簡単に倒させてくれない・・・

遊泳の闘志は消えかかっていく。

鉄「さあいくぞ！ 巨大ネズミ で ペンギン・アーチャー を攻撃！」

カイン（この攻撃を受けて ナチュル・ビースト の

ダイレクトアタックを受けたら遊泳の負けか・・・。）

遊泳「トラップ発動！ ペンギン・ガード ！

ペンギンモンスターが攻撃対象になったとき、

デッキからレベル4以下で守備力2000以下のペンギン

モンスター1体を墓地へ送り、

その守備力分、対象モンスターの守備力をアップする！
ペンギン・ガードナー を墓地へ送る！」

ペンギン・ガードナー DEF 1900

DEF 1000 +1900 ≡ 2900

鉄「うおっ！守備力を上げてきたか！」

鉄 LP 3100 -1000 ≡ 2100

遊泳「さらに、このカードの発動時、相手に戦闘ダメージを与えたとき、

攻撃モンスターを破壊する！」

鉄「ほう……。」

これなら直接攻撃での大ダメージはない。遊泳は心の中でホッとした。

鉄「だが ナチュル・ビースト の攻撃が残っている！

ナチュル・ビースト で攻撃！！」

遊泳「…… ペンギン・アーチャー の攻撃力は1400……
その半分の700のダメージを受けるのか……。」

遊泳 LP 2650 -700 ≡ 1950

ジャンク・アタック の効果を受けたものの、
なんとかライフを多く保つことができたと安心する遊泳。

鉄「悪いが、まだ俺のバトルフェイズは終了してないぜ！

永続トラップ リビングデッドの呼び声 ! 墓地のモンスター
Iを

攻撃表示で特殊召喚する！」

巨大ネズミ ATK 1400 +500 ≡ 1900

遊泳「んなつ!？」

鉄「ダイレクトアタックだ！」

遊泳「ぐわっ！」

立体映像だとわかっていても、その凄まじい迫力で
本当にダメージが通っているような感じだった。

遊泳 LP 1950 - 1900 ≡ 50

遊泳「げっ!もう俺のライフがほとんど残ってねえ！」

カイン「おい何やってんだよ!デュエルチャンピオン目指してる
んじゃないのかよ！」

遊泳「んなこと言われても・・・魔法カードも封じられているの
に・・・

しかもライフが残り50・・・どうすればいいんだ・・・。

「

鉄「ターンエンド・・・天銀 遊泳・・・それほど

大した相手ではなかったな・・・。」

鉄	LP	2100
遊泳	LP	50

遊泳「・・・この状況を何とかするカードが来れば・・・

俺だつてやるときはやるさ・・・。まずはカードを引くんだ！」

俺のターーーーン!!!!」

この遊泳の声が響き渡る。(一応近所迷惑にならない程度)

遊泳「・・・来た・・・!」

鉄「ん?」

遊泳「チューナーモンスター チューン・ペンギン を召喚!」

ATK	500	LV	3
-----	-----	----	---

遊泳「このカードが召喚に成功したとき、

墓地のレベル3以下のペンギンモンスター1体を特殊召喚できる!

ペンギン・リクルーター を特殊召喚!」

ATK	1300	LV	3
-----	------	----	---

遊泳「さらに、この効果で特殊召喚したモンスターのレベルを1つ下げることができる!

レベル2 ペンギン・リクルーター に、レベル3 チューン・ペンギンを

チューニング!!」

鉄「こ……この状況でシンクロ召喚だと!？」

遊泳「遥か彼方の大地の戦士よ……正義の叫びとともにその姿を現せ!

シンクロ召喚!現れる! ペンギン・ウォリアー!!」

戦士の鎧を身に着けた巨大なペンギンが現れる。

ATK 1900 LV 5

このモンスターは遊泳の主力モンスター。

シンクロ召喚に成功するといつも遊泳はうれしそうな顔をする。

遊泳「このカードの攻撃力は、

俺の場のペンギンモンスターの数×200ポイントアップする!」

ATK 1900 +200 ≡ 2100

遊泳「トラップ発動! ペンギン・オーバードライブ!

自分フィールドのモンスターがペンギンモンスター1体のみの場合に発動できる!

そのモンスターの攻撃力を1000ポイントアップし、このターン、選択したモンスターだけが攻撃可能になり、相手フィールドのモンスターすべてに1回ずつ攻撃できる

!」

鉄「なにっ!？」

ATK 2100 +1000 ≡ 3100

遊泳「いくぜ!バトルだ! ペンギン・ウォリアーで 巨大ネズミを攻撃!」

誇り高き戦士のようなペンギンの凄まじい一撃が巨大ネズミを襲う。

鉄「うおっ!？」

鉄 LP 2100 -1200 ≡ 900

鉄「俺は 巨大ネズミ の効果は使用しない。
奴の連続攻撃を喰らうからな・・・。」

遊泳「・・・。」

鉄「それに、モンスターが減ったことにより、
ナチュル・ビースト の攻撃力が下がるが、
それでも十分な攻撃力を保っている!」

ATK 3500

鉄「お前のモンスターの攻撃力じゃあ、
俺のモンスターは倒せない!しかも、エンドフェイズには
お前のモンスターはゲームから除外される!

これでお前の場はがら空き！次のターンで終わりだ！」

遊泳「ふっ……それはどうかな？」

鉄「なに……？」

遊泳「あの時、何で ペンギン・アーチャー の効果で
わざわざ手札を捨てたと思う？」

鉄「な……ま……まさか……！？」

遊泳「そう……俺のキーカードは……墓地にあってこそ発動
する

ペンギン・ブースター さ！」

そう。遊泳の真の狙いはわざと手札を墓地へ捨て、効果を発動する
ため。

鉄は驚きを隠しきれない表情だ。

遊泳「自分のペンギンモンスターが戦闘で相手モンスターを破壊
したとき、

このカードをゲームから除外することで、そのペンギンモ
ンスターの

攻撃力をエンドフェイズまで倒したモンスターの攻撃力分
アップさせるのさ！」

鉄「ぐっ……！」

カイン「そうか！ ペンギン・ブースター の効果は

戦闘でモンスターを倒すのが条件・・・

倒した後で効果を発動しても2回目の攻撃はできない・・・

。

この効果を生かすために ペンギン・オーバードライブ
がある・・・。

このためにあの時わざとあのカードを墓地へ送ったのか

！
」

カイン・・・説明乙です。

遊泳「というわけだ！とどめの一撃、いくぜ！」

ATK 3100 +1900 ≡5000

鉄「攻撃力5000だと・・・！？」

遊泳「ペンギン・ウォリアー で ナチュル・ビースト を攻

撃！

ペンタレス・ブレードおおー！！！！！！」

この一撃でナチュル・ビーストが一瞬で倒させる。

鉄「具わあああああああー！！！！！！」

鉄 LP 900 -1500 ≡0

WIN Y u e i

遊泳「おっし！勝ったぜ！」

このデュエルを見ていたカイン、そしていつの間に来たのか、周りの観客からの拍手が響き渡る。

遊泳「やはは〜どうもどうも。」

カイン「ふっ……さすがデュエルバカ……その肩書きは本物だな。」

[illegible]

デュエル後、俺とカイン、そして鉄と俺ん家でティータイム。放課後ティータイムならぬ、デュエル後ティータイムだ。デュエル後の1杯はたまらなく美味い。

「遊泳「おっ！1週間ぶりのモンブランじゃねえか！」

カイン「どうだ鉄、君も食べるか？」

鉄「いやあどうも……。」

遊泳「まあ、今日のデュエルも楽しかったな。」

デュエルは俺の人生だぜ。

鉄「そうそう、俺はこういう人を誘いたかったんだ。」

「遊泳誘う？どっいっことだ？」

突然の鉄の言葉にカインと遊泳は疑問を抱く。

鉄「そろそろ本題に移るとしよう・・・。

遊泳、君を誘いに来たんだ。デュエルアカデミアに。」

遊泳「え？そこって・・・デュエルしてデュエルしてデュエルするところだろ？」

もちろんデュエルだけではなく勉強だつてしなければならない。恐らくこいつはデュエルのためだけに入学するつもりだろう。まあこいつのことだ。学問の成績の悪さで即退学になるだろうな。案の定、

遊泳「デュエルのためならどこにでも行くぜ！

おい！入学金は！？制服は！？場所は！？」

この通り、遊泳は落ち着くこともできなくなった。

「デュエル」という言葉にはよく反応する。

カイン「入学金が・・・確かに気になるな。

ここんどこ、消費があれなんだよな・・・。」

鉄「いえ、デュエル部からの推薦ですので、

デュエル部に入るだけなら入学金はそれほどかかりませんよ。手続きも簡単です。この書類の通り。」

カインと遊泳に普通の入学の手続きと

デュエル部に入部するだけの場合の手続きの書類が渡された。

カイン「部活入部だけのほうが手続きは楽だし、金もあまりかからない。」

「 遊泳。お前部活だけでいいだろ？どうせ勉強はだめだし。」

遊泳「デュエル部！もちろん俺はデュエル部だ！

勉強なんかどうでもいい！デュエル部に入部させてくれ！」

だれかこいつを黙らせてくれ。カインはそう心の中で叫んだ。

カイン「・・・決まりだな。ていうかデュエルアカデミアってデュエル中心だろ？」

鉄「ええ。学問のほかに、1週間に1度、デュエルの実習をする授業があります。」

カイン「授業はそこだけ出席・・・ってことはできないか？」

鉄「まあ・・・一応できますね。」

遊泳「うほっ！！」

カイン「じゃあ、そうさせてもらう。それと・・・授業中にこのバカが迷惑かけたら

すぐに教室から追い出してもいい。」

鉄「了解しました。では、入学許可書は後日お届けします。それでは、失礼します。」

そついい残し、鉄は家から出て行った。

デュエルアカデミア・・・いったいどんなところだろうな・・・。
 ワクワクが止まらない俺・・・歓喜死しそうなくらいだ。

デュエルアカデミア……俺は後日、デュエル部に入部することになった。

それは……俺の人生の始まりと云っていい……。

そして、失われた俺の過去の記憶……。

これを思い出そうとするとワクワクがいきなり消えて、やはり頭痛がしてくる・・・。

だから俺はもう事故のことは考えないことにした。

さあ、俺のデュエルライフの始まりだ！！

[illegible]

次回予告

遊泳「デュエルアカデミア」のデュエル部に入部した俺。

だがその前に待っていたのは教頭先生「Mr・K」とのデユエルだった。

それはまだいいが、やばいのは負けたら先生の恐ろしい
オカルト話に一日中付き合わなければならぬということ。
とにかく先生のオカルト話は恐ろしいらしく、
一度に何人もの生徒が長時間気絶するほどらしい。
気絶なんてごめんだぜ！絶対に負けるわけにはいかねえ！」

次回 T U R N 0 2 「悪夢のデュエル 恐怖のアンデ
ットデッキ」

遊泳「デュエルスタンバイ！」

今回の最強カード

遊泳「今回の最強カードは ペンギン・ウォリアー！」

攻撃力1900、守備力900だが、自分フィールドのペ
ンギンモンスターの数だけ

攻撃力がさらに200ポイントアップだから、実質攻撃力
2100。

もし戦闘で破壊されても、手札のペンギンモンスターを除
外すれば

復活するすげーモンスターなんだぜ！」

テキスト

ペンギン・ウォリアー

5 A T K / 1 9 0 0 D E F / 9 0 0

水属性・水族・シンクロ／効果

「ペンギン」と名のついたチューナー

+ チューナー以外の「ペンギン」と名のついたモンスター1体以上

このカードの攻撃力は自分フィールド上に

表側表示で存在する「ペンギン」と名のついたモンスターの数×2
00ポイントアップする。

このカードが戦闘によって破壊され、墓地へ送られたとき、

手札から「ペンギン」と名のついたモンスター1体をゲームから除外すること

次のスタンバイフェイズ時に墓地に存在するこのカードを
守備表示で特殊召喚する。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6409z/>

遊戯王 Eternal Bonds

2011年12月21日16時48分発行